

大型商業施設と大学が連携し、地域貢献を目指す

アリオ橋本は、平成二二年に神奈川県相模原市の橋本駅前にオープンした大型の複合商業施設である。橋本駅は本学最寄の相模原駅の隣で、JR横浜線・相模線と京王線が交差するターミナル駅である。多くの店舗が並ぶ商業地域で本学の学生も多く利用している。

アリオ橋本はコンセプトの一つに、『地域と共に成長し、協力しながら「町づくり」に貢献すること』を掲げている。一方、本学は地域貢献を大学の重要な使命のひとつとしている。近隣に位置し、地域貢献を目指す姿勢も合致することから両者は平成二三年に「地域貢献に関する協定」を締結した。アリオ橋本の客層や施設・設備、本学の学びの領域等互いの特徴を踏まえて意見交換を重ね、アリオ橋本のイベントスペースにおいて、夏に親子向けのものづくり・体験教室を、冬にファッションショーを行うことが決まった。本稿では、このうち、ファッションショーの実施について紹介する。



プロジェクト概要

- テーマ
アリオ橋本のアパレルショップから学生が商品を選び、各世代に向けたスタイルをいくつかのシーンを設定してコーディネートするファッションショーを実施する。
- パートナー
アリオ橋本(支配人 長尾 信博)
- 担当教員
白井 篤 教授、花田朋美 助教
(現代生活学部生活デザイン学科)
- 担当学生
岡野友美、小林紀子(生活デザイン学科3年)、ほか29名(平成24年度)
- 実施期間
平成23年6月～平成24年12月

「リアルな暮らし」に溶け込む 新しいファッションスタイルを提案する。

商業施設、学生、地域住民の三者連携による

「提案参加型」のファッションショープロジェクト





KVA Column

互いの特色を活かした多面的連携

本稿でも触れているとおり、アリオ橋本においてはファッションショーのほか、親子向けの「ものづくり・体験教室」を平成23年と24年の夏に実施している。これは、町田キャンパスの3学科(生活デザイン学科、児童学科、人間福祉学科)の教員と学生が、子どもたちと一緒に工作や裁縫、実験、車いす体験などを楽しむ企画である。毎年400人以上の子どもたちが参加し、好評を得ている。このほか、平成24年度はアリオ橋本にてインターンシップを実施した。4名の学生が2週間にわたり、華やかな商業施設全般の仕事を体験した。さらに、今後は、施設デザインをテーマとした連携も検討している。

それぞれの特徴を踏まえ、「あんなことはできないか、こんなことはできないか」と、お互いに知恵を絞り、多面的な連携を進めることで、双方にとって、また、地域にとって価値のある成果を生み出していくことを目指している。

平成二四年度は、シーンの数を増やすなど、バージョンアップしたショーを目指した。ただし、一年生が新メンバーとして参加したためチームづくりから始めなければならなかった。当初は「一年生は自分たちとは熱意が違う」(岡野さん)と感じていたが、コミュニケーションをとったり、仕事をしている姿を見せたりと接し方を工夫をしたところ、本番の二週間前には「一年生が自分から積極的に行動するようになり、チームがまとまってきた」(小林さん)と言う。こうしてチームがひとつになり、二回目の「KVAコレクション」も成功を収めた。

二年間の活動を経て二人は、「ゼロから何かを創るのはたいへんだけど、達成感がある。働くことの楽しさが少しわかった」(岡野さん)、「地域の人や後輩、先生たちと交流したことにより視野が広がった」(小林さん)と振り返る。プロジェクトを成功させた喜びだけでなく、仕事観の変化や視野の拡大などの成長がもたらされている。

ファッションショーから得たことと、自分たちの成長について

六月以降、毎週ミーティングを行い、役割分担やスケジュールの確認、コンセプトづくり等を進めた。イベントの名称は「KVAコレクション」女子大生が選ぶ「ファミリーファッション」と決まり、九月以降はアリオ橋本の担当者も交えて打ち合わせを行った。

こうして、学生主体のプロジェクトチームにより、ショーの企画が進められた。

プロジェクトは、生活デザイン学科の有志学生によるチームで実施することとし、花田朋美助教より関心のありそうな学生に個別に声を掛けつつ、授業を通じて広く参加を呼びかけた。

平成二三年度は呼びかけに応じた学生十五名で活動をスタートした。リーダーの岡野友美さんは、「今までにない形のショーで、自分たちでゼロから創りあげられるのはおもしろそう」と考え参加した。同じくサブリーターの小林紀子さんも「新しい取り組みに挑戦してみたい」との思いで参加した。



企画・立案、チーム運営、対外調整、ステージ運営…

学生主体ということは企画立案、チーム運営、パンフレット制作など、あらゆることを学生が行うことである。アリオ橋本やイベント会社との折衝や調整では自分たちの思いどおりにいかないこともあるし、グループ内での意見の食い違いなども取り纏めていかなければならない。そうした困難に対し岡野さんは、「いいものを創りたい。とにかくやるしかない」という気持ちで向かったという。

シーンや衣装、演出、モデルなどすべてが決定し、前日には荷物の搬入を終え、いよいよ当日を迎えることとなった。当日はモデルとして協力いただいた方への対応、お客様への対応、アリオ橋本との調整、さらには撮影など、それぞれに役割が求められた。

こうして、平成二三年一二月三日、最初の「KVAコレクション」女子大生が選ぶ「ファミリーファッション」が開催された。当日は多くのお客様を得て、盛況のうちに終えることができた。